SOTO インターナショナル

発行日　2011年4月1日　　発行人　細川正善
編集責任者　廣澤道秀　　編集担当　佐藤慧真
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局　〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内
Tel. 045-843-8852　Fax. 045-843-8864　　URL: http://www.soto-zen.net/
郵便振替　00100-6-611195　SOTO禅インターナショナル

Vol.46
2011年度総会・講演会特集号

2011年度総会・講演会　集合写真

東日本大震災　被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます

この度の東日本大地震と大津波に遭われ、被災されたすべての皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

また、亡くなられた多くの皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、未だ行方不明の方々の無事と一刻も早い再会を念願する次第です。

地震発生後、次々と報道される被災地の状況は想像を絶し、被災者の皆様や御親族の心情を思うと胸が詰まる思いでいっぱいです。

現在、地震や津波による死亡者・行方不明者は、2万1千人（3月23日現在）を超え戦後類を見ない大惨事となり、改めて自然の猛威と人間の無力、近代文明の脆さを痛感するばかりです。

また、福島県では地震・津波による福島原子力発電所の事故で深刻な状況下におかれ、周囲20キロ範囲の避難命令で多くの皆様が、行方不明や亡くなられた方々をそのままに住み慣れた場所を離れ、避難を余儀なくされております。

しかし、未だ原子炉を鎮火冷却させる術なく予断を許さない状況が続いておりますが、原子炉の冷却に向け決死の作業に携わっている多くの関係者の皆様に、敬意を表すとともに心から応援申し上げます。

震災に遭われた多くの皆様は未だ不自由な避難生活を強いられておりますが、寒さと空腹の中にあっても、相手をいたわる気持ちを忘れず、悲しみを乗り越え、再会・復興を信じ、じっと耐えるその姿に日本人の威厳と誇りを感じております。

そうした中、徐々に救援・支援の輪も広がり落ち着きを取り戻しつつあります。そして、廃墟と化した町並みを前にしながらも復興の気運も見え始めております。

SOTO禅インターナショナルは、そうしたすべての被害に遭われた皆様に対し全力を挙げて支援を行い、希望を忘れず、ともに歩み復興に向け応援をしてまいります。

平成23年3月23日

SOTO禅インターナショナル

特集　2011年度総会・講演会報告

2011年度　所信表明

温故知新　ー顔の見える支援交流活動ー

ＳＺＩ会長　細川正善（ほそかわしょうぜん）（福島県天徳寺住職）

細川正善会長

就任以来早２年、有能なスタッフに支えられ大過なく「人・情報・縁」－行動から実践へ－をテーマに活動して参りました。また、この度の役員改選にあたりみなさまの御推薦を賜り、改めて２期目を誠心誠意務めさせて頂きます。

ＳＺＩは、平成5年（1993年）の発足当時より、宗門の海外開教に従事する国際布教師支援、人材の育成、情報の共有化ネットワークの構築を目指し各国際布教地との交流活動を展開しております。

とりわけ福島前会長が取り組んだ「人・情報・縁」をテーマとした各海外布教寺院とのネットワーク、ホームページの公開と共有に努め、そこで結ばれた縁は、「GATE」核兵器廃絶支援の上映、「塔婆供養で植林支援」等と国内における寺門の実践活動に結びついております。

こうしたスタッフの弛まぬ活動と啓蒙運動が実を結び、当初OB並びに関係者を中心にした国際布教師支援も、現在では、当会の活動に宗門の国際布教に対する認識が強化され、物心両面にわたる国際支援と変わって参りました。

宗門に於いて当会はあくまでも任意団体として支援者の理解と協賛により運営され、こうした活動を通じしっかりした目的意識を持った中に、国際社会に対応できる人材の育成、自己研鑽、他団体との交流事業を随時展開し、さらに国内の宗門寺院に国際布教の現状を知ってもらうべく、ウェブサイトの運営、年３回の会報と発会15周年を記念に編纂された『海外寺院ガイドブック』を上梓しております。

さて、近年の社会を見ますと情報ネットワークの技術発展は目覚ましく、瞬時にして世界の人々と情報を共有し行動を起こすことが出来る現代社会、生活に無くてはならないツールとなっております。

このツールによって人々の価値観は急速に変化し、ネットワークは人々を決起させ国の政権さえも揺るがすパワーを生み出しています。

国内にあっては、情報の共有は死後の世界・葬儀・寺院・僧侶にも深い関心が寄せられ、毎日の如く新聞紙上、メディアの報道に「孤独死」「葬儀」「戒名」「布施」「リベート」等が挙げられ社会問題となっており、仏教葬儀に関する記事は枚挙にいとまがありません。

こうした報道は、寺院のあり方・布教に対する不信感の現れであり、それに相まって死後に対する不安や心のケアをカウンセラーや医療機関に求められる今、寺院・僧侶の役割は人々の心の拠り所としてで無く、単なる通過儀礼の場となって久しいのではないでしょうか。

そこで、これらの諸問題を考える上で、宗門の先端教所であるアンテナショップ的役割を果たしている日系社会の中に生まれた海外寺院の檀家制度からメンバー制（信者）、「禅センター」の坐禅を中心としたサンガ形態、そして地域社会と運動を共にする「エンゲージド・ブディズム」の実践に学び、先達（国際布教師）に習いながら、国内布教に反映出来るのではないでしょうか。

また、今日までの国際布教の歴史を鑑み、継続事業である啓蒙活動の一環として「国際布教戦後史の編纂。国際布教の歴史と現状を紹介し、長く国際布教の歴史に刻む」を前提とした戦後の『（仮称）曹洞宗国際布教史』（日系寺院史）編纂事業を小冊子にまとめ顕彰し、宗務庁、各関係機関に呼びかけて行きたく存じます。

さて、時代のニーズに対応すべく、最新の情報ツールを駆使しながら、旧来のコミュニケーション・ツールである顔の見える支援交流（「人と人」の直接対話）を重視し、当会の活動理念である「海外支援」「人材育成」「情報交流」「自己研鑽」「啓蒙活動」の運動を実践し、新たな体制と「温故知新」のテーマの下「顔の見える支援交流活動」を目指し、下記の事業活動を展開し国際布教の支援・応援をして行きたく存じます。

● 基本活動方針

1．会の運営に当たり、ＳＺＩは何を求められ展開して行かなくてはならないか再検証し、発足当時の活動理念に照らしながら、スタッフはもとより国際布教師の活動を支援すべく、それらの方々の声を反映させ、さらに元国際布教師、宗務庁教化部国際課、各組織（両大本山・地方僧堂等）との連携理解を深める。

2．国内寺院に対し、国際布教の重要性を理解してもらうべく更に啓蒙活動を展開する。

3．組織の合理・効率化を図る。

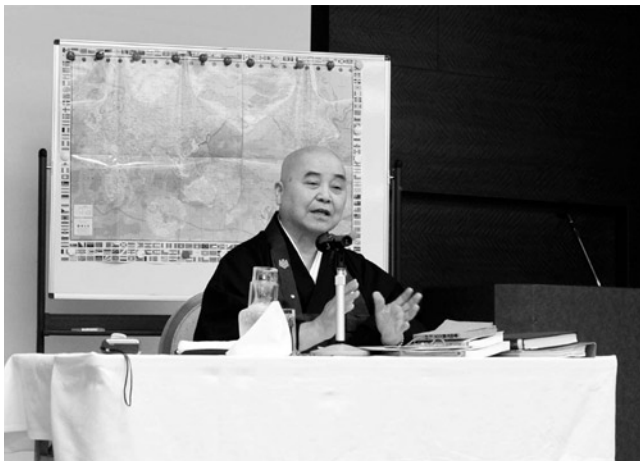
4．自己研鑽・人材育成
両大本山のワークショップの継続、海外各所でのワークショップの実現

特集　2011年度総会・講演会報告

総会講演会抄録

国際布教伝道史への提言＜国際布教の古今東西＞

小笠原隆元（長野県廣澤寺住職）



小笠原隆元師

皆さんこんにちは。信州松本郊外にある山寺の和尚です。まず初めに、私の国際布教や海外寺院との関係について、簡単に自己紹介させて頂きます。

私は長野県松本市の山寺に生まれ、昭和31年に駒澤大学の竹友寮に入りましたが、その当時は海外寺院のことなどほとんど知る由もありませんでした。しかし思い起こしてみると、昭和24～25年、私が小学生の頃、まだ食糧難で何もない時代に、ハワイから荷物が届きました。中を開けてみるとハワイの砂糖です。それはハワイで僧侶をしていた長野県の山崎自性という方からでした。その時に、日本以外にも曹洞宗のお寺があるんだという印象を初めて持ちました。その後、大学３年の頃に曹洞宗教化研修所が出来ることになり、海外関係のコースも出来ることになりました。私も興味があり、入ってみようかと思いました。その時に、増永霊鳳先生から「駒澤大学を卒業してハワイに渡った市村承秉君は、本土に移り大学にも行った。」という話を伺い、私はそんな人も駒澤にいるんだと思いました。また、当時の宗会議員に大川玄道師という、以前にハワイで開教師をなさっていた方がいらっしゃることも耳にしました。

私が何かの会合の時に、「曹洞宗僧侶で戦前戦中戦後に外国で開教師をなさっていた方が大勢いるようですが、そういった方達は日本に帰ってきて何をしているんでしょうか。日本の中で、海外の情報を皆のためにお知らせ願えないのでしょうか。」と質問したら、偉い方から「外国に行ったって、日本と同じようにお経を読んできただけだ。日本に帰ってきても役に立つわけはない。」と真に辛辣なことを言われました。私はその時、いささか失礼な言葉ではないかという印象を持ちましたが、それが昭和35年位のことでした。

その後私は大学院へ進みましたが、そこで外国に留学したことがある人達に出会うことが出来ました。各宗の国際派といわれる人達の末席で、日本仏教と海外との関係に興味を持ち、いろいろ知るように努めて参りました。そして、昭和43年頃に12年間の大学生活を終え、駒澤大学に籍を置かせて頂くようになります。最初は仏教学部の助手になれと言われましたが、次に「お前は英語が使えるから外国語学部に来て英語の授業をやれ」と言われました。

そしてその時の最初の授業に大場満洋君がいて、２～３年後には細川正善ＳＺＩ会長が一番前の席で私の話を聞いていました。また、采川道昭（南アメリカ国際布教総監）君も一番前で聞いていました。私はその頃聞きかじりでしたが、曹洞宗のお寺が海外にあって云々だということも授業で言っておりました。その内、奥村正博（前曹洞宗国際センター所長）君なども来たりしました。その時は海外に行くなどということは、細川君も奥村君も考えていなかっただろうと思います。

しばらくして、曹洞宗教化研修所で新しく海外課程に入ってくる学生がいるから、面倒を見て週に一回英語の授業をやれと言われます。ハワイ開教師で行く中小路冏道という人でしたが、彼と一週間に一度授業をして英語や海外のことを話しておりました。そしてその後、ＳＺＩに関係している福島伸悦君、山本健善君を初めとして次から次へと学生が参りました。

最近は一年に一度くらいの割合で曹洞宗国際布教課程に入ってくる人はいるのですが、課程を終えた後で、海外へ行って国際布教師をやるという人が少ないです。今はアメリカに松本宣雄君が一人行っております。が、他の人は海外で半年か一年の研修を終えて日本に帰ってきて、「師寮寺の補佐をしなければならない」と言う人が多くなっています。こういうのも、時代の流れの中で日本の曹洞宗寺院の生活状況と海外寺院の生活状況の接近、あまり差がなくなっている為かなとも感ずるこの頃であります。

ところで、ここにある『曹洞宗海外開教伝道史』は曹洞宗では差別図書として存在が否定されている本です。曹洞宗は道元禅師が1227年「空手還郷・眼横鼻直を知りて帰る」と言ったためでしょうか、海外へ行った方が日本に帰ってきてから「海外の寺院でこういうことをしたとか、海外の寺院では…」という言動を、戦前戦中の方はあまりなさらなかった気がします。そういう方々には、もっと自信を持って日本の和尚達に、その経験を語って頂き、刺激をして頂きたいという思いを数年来ずっと持っております。皆様の中にも、いろいろな理由で海外に出かけておられた方がいらっしゃると思います。

曹洞宗の寺院は戦前、東南アジア、南洋諸島、ハワイ、ブラジル、南米、それから北米へと広まり、そこに日系寺院がたくさんありました。しかし1941年の戦争勃発とともに、

ほとんど閉鎖されました。それが1945年に戦争が終わると、また細々と再興されてきました。1950年位になると日本から開教師を呼ぼうかどうかという動きが起き始めました。その時、開教師として赴いた方の一人が、先ほど触れた市村承秉先生です。ハワイへは善波卓道先生、町田時保先生なども行かれました。行かれてから、もう60年近くになります。

私は折に触れて、そのような方達がなさったことを書いたものが何かあるのかと言って参りました。宗務庁の方に問い合わせると「昭和30年頃から、ハワイやアメリカに行った人達からそういった資料を集めている」ということでした。どこにあるのか聞くと「宗務庁にあります」ということです。私が「そういう資料を本にすることはないのか」と教化学大会などの折りに尋ねると、「そういうこともしなくてはいけない」ということになり、昭和53年に曹洞宗海外開教伝道史編纂委員会というものが出来ました。これが岡田巳成宗務総長の時です。そして出版記念開教師慰霊法要を昭和57年10月13日午後3時よりここ宗務庁で行いました。慰霊法要と中村元先生による記念講演、出版記念レセプションがありましたが、その司会を私がやりました。

この本は500冊ほど、日本各地の元開教師等の方達にお配りしたと思います。しかし、この本が出来て10年ほど経ったとき、差別図書とされました。この本の中の表現の中には、非常に人権無視で差別擁護的な表現があります。こういう理由でこの本は絶版になり、差別回収図書ということになりました。

しかし、せっかく作ったものが、10年位で終わってしまうのは残念です。私も編集委員の末席を務めさせて頂きました。その時の編集委員には、若手としては、本日ここにいらっしゃる福島伸悦、山本健善、粟谷良道、松浦真英、そして少し年上の人に中野東禅、山路純生、中根昭典、五十嵐卓三、小笠原隆元がいました。その他に、元開教師で苦労された佐藤久学、村野孝顕、そして須田道輝という曹洞宗海外研修所の方もいらっしゃいました。この編集委員の中には、開教総監である大山興隆、山下顕光、新宮良範、弟子丸泰仙という方々も名前を連ねておりましたが、編集会議にはほとんど出席されていませんでした。四師にはそれぞれ自分の開教区に関しての原稿を提出して頂き、本の最後に載せました。その前の報告の部分は、樺太、朝鮮、満州、台湾、中国、北米、南米の開教師の方々のレポートを集めたものの中から取捨選択し、編集委員がそれを元にして原稿を作りました。そして、それぞれのレポートを誰が書いたかということは全部伏せて、この本が出来ました。曹洞宗が作ったということで『曹洞宗海外開教伝道史』といいます。

この本は絶版になりました。私が曹洞宗総合研究センターで、この本の一部をコピーして授業に使用していたら、2年ほど前に宗務庁から「その本は絶版図書であるから、授業で使わないで欲しい」と言われました。しかし、「私はこの本を歴史的な資料として、若い学生諸君にこういうことがあったと知ってもらいたいから使っているのです。絶版で回収図書であっても研究用に持っているのです。」とお断りしました。

この本の内容については、皆さんご存じかもしれません。大体どの宗教においても、いわゆる海外開教、海外布教、国際布教というものが起こる原因は共通しているのではないでしょうか。戦争、動乱、革命、経済的興隆、経済的貧困、難民といったようなことがその最たる原因だと思って、私は学生に授業をしています。

例えば動乱といえば、1959年にチベットで動乱がありました。そのためダライ・ラマはヒマラヤを越えて、インドのダラムシャーラーに亡命しました。同じくインドに亡命してきたラマ僧が元となり、世界各地に広まっていきました。それまでチベット仏教というのは、世界の中で知る人は非常に少なかったです。ところが現在では、ダライ・ラマがノーベル平和賞を貰ったりしたこともあり、世界中でチベット仏教に対する関心は非常に高くなってきました。動乱、戦争、革命、難民等は、宗教的な布教活動の原因となる場合が多いのです。ヨーロッパの国々がキリスト教を世界各地に宣教したことも、植民地会得のための一環として行われたに過ぎません。こういった状況が歴史的に存在します。

日本も軍事進出的なものの後塵を拝して、海外開教が行われました。あるいは漁業とか狩猟、材木業等を求めて海外に定住する。そして日本からの呼び寄せ開教ということで、多くのお寺の関係者も海外に行くようになりました。アジアを初めとして数十、数百といったお寺が出来ました。そしてそのお寺は戦争協力ということに、非常に密接でした。曹洞宗の僧侶で軍事要員であった人、諜報機関だった人、煽動工作をしていた人もいたことが、最近は明らかになってきました。

いわゆる曹洞宗の国際布教・開教等は、戦争に非常に関係がありました。この本にある寺の写真にも必ず軍人が写っています。私は曹洞宗総合研究センターの授業の時、一年生の人達に、曹洞宗の寺院はこういう歴史の一面を持っていたことを忘れないで下さいと申してきました。

海外寺院だけでなく、国内でも同様です。私の住職地のお寺は、永平寺が出来てから200年余りして出来ました。通常、開教とかには非常に時間がかかるものです。ところが、東南アジアに出来た曹洞宗の寺院は日本の軍事進出によって、あっという間にあちこちに出来ました。兵隊で曹洞宗に関係のある人は届け出て、海外布教師いわゆる従軍僧、従軍布教師になって中国、台湾、満州等に行かれました。そして亡くなった人がいると、お経をあげたりしました。

曹洞宗の辞令を貰って海外に行った人達が、昭和30年代から40年にかけて、レポートを宗務庁にたくさん出していま

した。そうやって溜まっていた資料を元にして『曹洞宗海外開教伝道史』が作られました。これが差別図書になったことは大変残念だと思っています。私は一昨年の曹洞宗総合研究センターの学術大会で、僭越でしたが『曹洞宗海外開教伝道史』の再構築ということを提言致しました。

この本の中には、差別発言や不謹慎な言葉は確かにあります。その当時は、そういった言葉を使うことに対して非常に無神経でした。それで差別図書ということになったと思います。しかし、表現を変更したり置き換えるなどした上でＳＺＩの力で再構築し、曹洞宗の70年前80年前の歴史の再検討をして頂くことが宜しかろうと思います。また、この本の後には海外開教師の人達の名前がみんな載っていますが、そういう方々の追悼の供養になるとも思います。是非お願いしたいと思います。

海外に出て行った僧侶だけが軍事進出の片棒を担いでいたわけではありません。日本国内でも昭和10年代には、西欧列強に対して一矢報いるといって狂喜乱舞していました。ここに『曹洞宗報第66号別冊』という本があります。この本は、軍用飛行機「曹洞宗号」献納者一覧表です。日本国中の曹洞宗の和尚さんが全部、お金を寄付して曹洞宗号という軍用飛行機を寄付しました。この本からも、曹洞宗がいろいろな戦争支援を行っていたことが判ります。管長猊下からお師家さんまで全部加担していたと言わざるを得ません。恐ろしいことだったと思います。そして曹洞宗だけでなく他宗も皆、同様のことをしています。

最近『曹洞宗の戦争』という本が出版されました。秋田県のあるお寺の御住職が海外開教師として中国大陸に行きました。そして自分のお寺に手紙などをたくさん送りました。そういうものを主にして、また曹洞宗報などを資料として、この本には曹洞宗が如何に戦争に関与していたかということが克明に載せられています。

その海外開教師のお孫さんが、この会場においでになります。秋田県乗福寺御住職の中泉師です。駒澤大学で私の1年後輩です。その当時は、お祖父さんが海外開教師だということは全然知りませんでした。この本が出て、初めて判りました。

この本にはいろいろな写真もあったりして、曹洞宗の海外開教を志した人達が、その当時どんな苦労をしたか、どんなことがあったかということが克明に記載されています。当時の曹洞宗は、戦争を高揚するような文章をたくさん宗報に出しました。戦争を賛美する内容です。ですから、戦争責任を無くしてしまうわけにはいきません。現在の曹洞宗からは想像できないようなことがみんな書いてあります。これらの資料を『曹洞宗の戦争』という本にまとめた方は、青森の一戸彰晃師です。そしてその資料を提供されたのが、乗福寺御住職です。ＳＺＩの皆さんには是非御覧頂きたいと思います。

このような過去は忘れたいけれど忘れることは出来ません。歴史的な流れを理解することは必要です。この『曹洞宗海外開教伝道史』という本も、いたずらに差別図書、人権無視だ、差別用語がある等といった一言で片付けられてしまいました。曹洞宗から懺悔文も出されました。しかし、特に若い僧侶には歴史を知ってもらいたいと思い、曹洞宗総合研究センターの授業の際には、そういうお話をしてきました。

この『曹洞宗海外開教伝道史』は開教師が日本に帰ってきて20年程経ってから、思い起こして書いたものが中心です。どうしても自分を美化するような点は否定できないでしょう。自分のしたことを正当化することもあったと思います。こういったものを集めたものですから、その当時の現地状況などの客観的記述に欠ける点もあるかもしれません。ですから、差別回収図書になってしまったと思います。

日本も戦後回復して昭和40～60年代になると、日本と外国との経済的な差というものも縮まりました。そのため、国際布教師として赴任して下さいと言っても「いや、日本にいた方が楽だから、行かない」と答える方が増えたと思います。

私が初めてアメリカに行った時、山下顕光先生からいろいろなお話を伺うことが出来ました。また、国際布教師として行かれたことのある方は、お書きになりたいことが沢山あると思います。そういうようなものを集めて『曹洞宗国際布教師の歴史』といったタイトルの本が出来ても、全く不思議ではないと思います。国外で活躍して世界を御覧になった方々ですから、何か日本曹洞宗一万数千ヵ寺に影響を及ぼして下さい。

私はアメリカに行ってお寺が寺報を出していることを知り、自分のお寺でも寺報を出すようにしました。最近、慶応大学の中島隆信先生が『お寺の経済学』という本を出されましたが、50年後には日本のお寺は現在の1割しか残らないということが書かれていました。さもありなんと思います。葬式も直送とか家族葬が増えています。自分のお寺は大丈夫だろうと思う一方で、檀家が減ったりすることを恐れています。私はお檀家さんに「うちの和尚はまた外国に行った」とよく言われますので、外国に行ったときの写真などを寺報に載せてお配りしています。そうすると松本の人達が、「外国にお寺があるとは知らなかった。外国人のお坊さんがいるとは知らなかった。外国のお坊さんがどうやってお経を読むのですか。」という質問を次から次へとされます。

後もう一点、付け加えたいことがあります。それは『曹洞宗海外開教伝道史』を作製する際に、一つの欠点がありました。それは全部男性で作ったということです。全て男のレポートを元にして男の編集委員が作りました。女性に対する配慮は何ら一切ありませんでした。更に、開教師や布教師のレポートにも、寺族や奥さんに対する記述も一切ありません。布教ですとか寺院を護持するということに対する、奥さんや息子や娘の側から見た記述も必要であろうと思います。曹洞宗は寺族や住職の奥さんの位置づけがまだ不完全だと思います。そういったことも、このような本には書かれなければならないでしょう。

最後になりますが、曹洞宗には海外に縁のある方がたくさんいらっしゃいます。こういった方々がそういうことを原稿や記録に残しておいて下されば、将来の孫や子どもたちが海外に対する目を開くことが出来ると思えてなりません。よろしくお願い致します。

特集　2011年度総会・講演会報告

SOTO禅インターナショナル2011年度総会報告

去る2月28日（月）13時30分より曹洞宗檀信徒会館「桜の間」にて、SOTO禅インターナショナル（以下ＳＺＩ）の2011年度総会が開催されました。総会に先立ち、3分間の椅子坐禅と、国際布教関連示寂者法要が営まれました。引き続き開会の辞の後、細川正善会長による挨拶があり、ニュージーランド地震へのお見舞いの言葉が述べられました。

■ 来賓挨拶

来賓挨拶として釜田隆文教化部長老師が、ＳＺＩの18年の活動の継続を仏道を行ずる行為そのものであると述べられ、100年以上の経過を経た宗門の海外布教と布教師らの揺ぎ無い精進とを振り返られました。また、宗立専門僧堂が熊本の聖護寺で開単されたことと、前北米総監秋葉玄吾師が進めている天平山禅堂プロジェクトについて、これにより国際布教が大きく飛躍することを期待すると述べられました。続いて今年11月4日檀信徒会館において開催される国際シンポジウムの紹介をされました。

■ 議　事

議長として、山本健善師が選出されました。まず、亀野哲也事務局長より2010年度の事業報告（本誌7ページ参照）が行われ、田宮隆児会計より2010年度の決算報告（本誌7ページ参照）がありました。決算報告につきましては、葉貫成吾監事より滞りなく監査が済んでいることへの報告が成されております。質疑では金田諦典師より海外寺院ガイドブックへの感想の言葉をいただき、飯島尚之副会長よりは、国際布教支援金の運用報告がありました（本誌7ページ2010年度事業報告内参照）。また（仮称）曹洞宗国際布教史編纂の進捗状況への質問があり、福島伸悦師よりハワイ・北米日系寺院の資料と宗報の関連記事をPDF化しており、それをもとに今年度編纂にあたりたいとの状況が説明されました。事業報告と決算報告については満場一致で承認されました。

続いて役員改正があり、事務局より細川会長の続投が提案され会場より拍手で承認されました。細川会長よりは、これまでの任期についての御礼と、また新しい任期についてこれまでの国際布教の歴史を振り返りながら、さらに顔の見える活動をとのお話がありました（本誌2ページの所信表明をご覧ください）。新年度のスタッフ（本誌9～10ページ参照）についても、拍手をもって承認されました。

引き続き、2011年度の事業計画案（本誌8ページ参照）が亀野事務局長より、また予算案（本誌8ページ参照）が太田賢孝会計より発表され、ともに承認をいただきました。

釜田教化部長老師による来賓挨拶

質疑として、国際布教支援金の運用に対するお礼の言葉がインド日本寺に派遣された洞派信隆師より述べられました。以上をもって総会は滞りなく終了しました。

■ 講演会

講演会に先立ち、GNC代表宮木いっぺい氏より「塔婆供養で植林支援」事業の報告がありました。続いて、小笠原隆元老師より「国際布教伝道史への提言＜国際布教の古今東西＞を演題として講演会が開催されました（本誌3～5ページ参照）。

■ 懇親会

午後5時より、曹洞宗檀信徒会館3階「蘭の間」にて、永井成典師の乾杯の音頭で始まりました。途中ゲストに歌手エリカさんを迎え、参加者一同和気藹々と懇親を深めることが出来ました。　（ＳＺＩ事務局記）

SOTO禅インターナショナル2010年度収支決算報告書

総収入金　5,219,842 円
総支出金　3,713,230 円
差引残高　1,506,612 円

収入の部　　2010年1月1日~2010年12月31日

項　目	本年度予算	本年度決算	増　減	備　考
会費収入	2,700,000	2,100,000	△ 600,000	年会費
事業収入	200,000	100,000	△ 100,000	総会会費等
助成金	1,200,000	1,200,000	0	両大本山、宗務庁
雑収入	600,000	487,790	△ 112,210	利子、添菓、賛助金
塔婆植林事業収入	750,000	677,580	△ 72,420	
繰越金	654,472	654,472	0	前年度よりの繰越金
計	6,104,472	5,219,842	△ 884,630	

支出の部

項　目	本年度予算	本年度決算	増　減	備　考
国際布教支援事業費	300,000	400,000	100,000	国際布教支援積立金
事業費	2,950,000	1,469,120	△ 1,480,880	総会、両大本山ws、ゆめ観音、サイパン20年、伝道史編纂事業等
印刷費	100,000	60,300	△ 39,700	各種印刷費
会報費	1,100,000	765,313	△ 334,687	会報印刷、発送費、会報担当費
会議費	500,000	216,890	△ 283,110	各会議費、会議交通費支弁
事務費	200,000	156,809	△ 43,191	事務連絡費、消耗品費、振込手数料等
通信費	100,000	13,560	△ 86,440	会報以外（総会報告等）の郵送費等
備品費	30,000	0	△ 30,000	
渉外費	50,000	0	△ 50,000	祝電、弔電、供花等
塔婆植林事業費	750,000	631,238	△ 118,762	うちGNC Japanへ50万円寄付
予備費	24,472	0	△ 24,472	
計	6,104,472	3,713,230	△ 2,391,242	

◎国際布教支援積立金	（定期貯金・前年度迄）	7,508,025 円
	（本年度積立）	400,000 円
	（本年度国際布教支援金）	342,662 円
	（本年度取崩）	0 円
	（本年度累計額・定期貯金）	7,565,363 円

上記の通り報告書を提出いたします　　2011年2月16日
SOTO禅インターナショナル会計　田宮　隆児 印

監査の結果、上記の通り相違ありません　　2011年2月16日
SOTO禅インターナショナル監事　黒柳　博仁 印　葉貴　成悟 印

2010年度ＳＺＩ事業報告

活動テーマ＜ 人・情報・縁 －行動から実践へ－＞（2010年1月1日～12月31日）

★ 自己研鑽事業

宗教間対話研究所月例会参加・各種講演会・勉強会参加・役員各自ブログ開設・運営

★ 講演事業

☆ 総会／講演会　主催
- 2月15日（月）　曹洞宗檀信徒会館
  講演会　講師　嶋野栄道老師

☆ 両大本山ワークショップ　主催
- 6月 9日（水）総持寺ワークショップ　大本山總持寺　講師 ルメー大岳老師
- 6月11日（金）永平寺ワークショップ　大本山永平寺　講師 ルメー大岳老師

★ 布教・協力支援事業

☆ ゆめ観音アジアフェスティバル　主催
- 9月 4日（土）第12 回ゆめ観音アジアフェスティバル　大船観音寺
- 6月20日（日）キャンドルナイト in 大船観音

☆ サイパン南溟堂参拝・布教師OB会　主催
- 2月24日（水）～ 27日（土）　サイパン島南溟堂

☆ 元北米布教総監　山下顕光老師13回忌法要　参加協力
- 3月27日（土）・28日（日）　北アメリカ 禅宗寺

☆ 各種行事人材派遣／交流
- 7月初旬　聖護寺国際安居通訳派遣　熊本県・聖護寺
- 7月28日（水）・29日（木）　永平寺主催夏期大学講座運営協力　檀信徒会館

☆ 塔婆供養で植林支援プロジェクト
- GNC　モンゴルと協働で2万5千本の植林（累計7万5千本）

★ 出版事業

ＳＺＩ会報43号（5月）、44号（8月）、45号（2011年1月）
海外寺院ガイドブック更新
（仮称）曹洞宗国際布教史編纂継続（日系寺院史）

★ 広報事業

ＳＺＩホームページの運営・海外寺院ガイドブックWeb版の運営
ブログやＥメールなどによる各事業の広報活動・情報提供

★ 国際布教支援金の運用

- 兵庫県　安泰寺（継続４年目／５年）
- 米国　龍門寺（継続４年目／５年）
- インド日本寺　派遣　洞派師

★ 表彰

- モンゴル・セレンゲ県森林動物センターより感謝状（植林事業）
- かながわ国際交流財団より民際基金への寄託感謝状（ゆめ観音実行委員会）

SOTO禅インターナショナル2011年度収支予算書 ~~(案)~~

総収入金　6,656,612円
総支出金　6,656,612円
差引残高　0円

収入の部　2011年1月1日~12月31日

項目	前年度予算	本年度予算	増減	備考
会費収入	2,700,000	2,500,000	△ 200,000	年会費
事業収入	200,000	200,000	0	総会会費等
助成金	1,200,000	1,200,000	0	両大本山、宗務庁
雑収入	600,000	500,000	△ 100,000	利子、添菜、賛助金
塔婆植林事業	750,000	750,000	0	
繰越金	654,472	1,506,612	852,140	前年度繰越金
計	6,104,472	6,656,612	552,140	

支出の部

項目	前年度予算	本年度予算	増減	備考
国際布教支援事業費	300,000	500,000	200,000	国際布教支援積立金
事業費	2,950,000	3,000,000	50,000	ゆめ観音(35万)、国際布教近代史編纂(160万)、講演会・WS(80万)他
印刷費	100,000	100,000	0	各種印刷費
会報費	1,100,000	1,000,000	△ 100,000	会報印刷、発送費、会報担当費、原稿料
会議費	500,000	500,000	0	各会議費、会議交通費支弁
事務費	200,000	200,000	0	事務連絡費、消耗品費、振込手数料
通信費	100,000	100,000	0	会報以外（総会報告等）の郵送費等
備品費	30,000	30,000	0	
渉外費	50,000	50,000	0	弔電、供花等
塔婆植林事業	750,000	750,000	0	
予備費	24,472	426,612	402,140	
計	6,104,472	6,656,612	552,140	

◎国際布教支援積立金	（定期貯金・前年度末迄）	7,565,363円
	（本年度積立）	500,000円
	（本年度国際布教支援金）	500,000円
	（本年度取崩）	0円
	（本年度末累計額・定期貯金）	7,565,363円

＊海外布教支援積立金運用資金細目に基づき取り崩す可能性があります

上記の通り予算書を提出いたします

2011年2月28日

SOTO禅インターナショナル

会計　太田 賢孝 印

2011年度ＳＺＩ事業計画 ~~(案)~~

活動テーマ< 温故知新 －顔の見える支援交流活動－>（2011年1月1日～12月31日）

★ 自己研鑽事業

宗教間対話研究所月例会参加・各種講演会・勉強会参加・役員各自ブログ開設・運営

★ 講演事業

☆ 総会／講演会　主催

・2月28日（月） 曹洞宗檀信徒会館
講演会　講師　小笠原隆元老師

☆ 両大本山ワークショップ　主催

・5月 2日（月） 總持寺ワークショップ　講師 ティク・ナット・ハン師
・6月17日（金） 永平寺ワークショップ　講師 ネルケ無方師

★ 布教・協力支援事業

☆ ゆめ観音アジアフェスティバル　主催

・9月10日（土） 第13 回ゆめ観音アジアフェスティバル　大船観音寺
・6月19日（金） キャンドルナイト in 大船観音

☆ サイパン南溟堂参拝　共催

・日程未定　サイパン島南溟堂

☆ 元国際布教師連絡会・瑞岳院30 周年記念事業／交流・協賛（住職・森山大行師）

・11月17日（木） 神奈川県湯河原・檜ホール

☆ 各種行事人材派遣／交流

・7月初旬　聖護寺国際安居通訳派遣　熊本県・聖護寺
・7月26日（火）・27日（水） 永平寺主催夏期大学講座運営協力　檀信徒会館

☆ 塔婆供養で植林支援プロジェクト

・GNCモンゴルと協働により継続

★ 出版事業

ＳＺＩ会報46号（4月）、47号（8月）、48号（12月）
海外寺院ガイドブック更新
（仮称）曹洞宗国際布教史編纂継続（日系寺院史）

★ 広報事業

ＳＺＩホームページの運営・海外寺院ガイドブックWeb版の運営
ブログやＥメールなどによる各事業の広報活動・情報提供

★ 国際布教支援金の運用

・兵庫県　安泰寺（継続5年目／5年）
・米国　龍門寺（継続5年目／5年）
・希望者の募集、対象者の選定、その他

ＳＺＩ新役員紹介

会　長

福島県天徳寺　住職

細川正善

相談役

埼玉県興徳寺　住職

福島伸悦

相談役

山形県般若寺　住職

藤川享胤

相談役

静岡県宗徳院　住職

松永然道

副会長（会長代理）

東京都宗清寺　住職

飯島尚之

小さな夢が集まれば、大きな夢に育ちます。先人の夢を次代へ繋げるには、一人ひとりのチカラが必要です。これからもＳＺＩ活動にご支援下さい。

副　会　長

静岡県永明寺　住職

加藤孝正

ＳＺＩは、“縄の結節”が私の持論です。我々一人ひとりの持つ細い国際的つながりの糸を結って出来た結節がSZIです。大きな結節からはより多くの糸を引き出せます。大きな結節を作りましょう。

副　会　長

愛知県地蔵寺　住職

浅井宣亮

革命が世界各地で起きています。宗門も外に目を向ける必要があるでしょう。ＳＺＩがそのお手伝いを出来ればと思います。

副　会　長

新潟県興源寺　住職

田宮隆児

海外での布教は、私を僧侶として育てていただいた原点の一つです。報恩感謝の意味も含め、務めさせていただきます。

事務局長

神奈川県貞昌院　副住職

亀野哲也

世界に広がるZEN。ＳＺＩならではの持ち味を生かして各事業に取組みます。日本と世界を相互につなぐ、その仲立ちの役割を果たす一助になれればと思います。

会　計

東京都大龍寺　副住職

太田賢孝

刺激的な国際布教の現場に、私自身が多くの問題意識を呼び起こされてきました。より一層多くの方々に国際布教の現場を知っていただきたいと思います。

会計補佐

静岡県隨縁寺　寺族

内山温子

新しい2年間を迎え、観音様の御慈悲に拝し、世界中の人々の安全を心よりお祈りいたします。

監　事

長野県本地院　住職

黒柳博仁

宗門の偉大な先人達によって結ばれ、後世の私達に託されている世界各国の人々との仏心の繋がりを、より広く豊かなものにできるよう精進して参りたいと思います。

監　事

福島県石雲寺　住職

葉貫成吾

ＳＺＩの監事の役を、厳しく勤めて参りたいと思います。

出版編集長

神奈川県成願寺　住職

廣 澤 道 秀

充実した内容の会報を滞りなく発行する事に努めたいと思います。執筆依頼の際は、皆様ご協力よろしくお願い致します。

編集長補佐

新潟県興源寺　徒弟

佐 藤 慧 真

会報は、会員の皆様とＳＺＩの活動をつなぐ重要な役割を担うものだと考えています。国内外の情報をお寄せいただければ幸いです。

事務局員

神奈川県梅宗寺　副住職

舘 盛 寛 行

日本とは異なる文化の中で禅の布教に努力し続けている方々に敬意を表すとともに少しでもお手伝いができればと思います。

事務局員

宮城県城国寺　副住職

菅 原 研 洲

国際布教の状況を国内に知ってもらうには、まだまだ多くの資料等の作成が必要とされています。そのような作業にも積極的に関わります。

事務局員

神奈川県善光寺　住職

黒 田 博 志

行き届かないことがあるかと思いますが、限りを尽くして一所懸命精進いたしますので、何卒よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。合掌

事務局員

京都府宗仙寺　寺族

細 川 浩 代

ＳＺＩの事務局に携わって5年経ちました。今年のテーマでもある顔の見える支援交流活動を率先して頑張っていきたいです！革命だあ～！

事務局員

神奈川県静翁寺　徒弟

亀 野 元 彰

ご縁を大切に、微力ですが一所懸命頑張ります。浅学非才の故、行き届かない事があると思いますが、宜しくお願い致します。

事務局員

東京都長泰寺　副住職

大 谷 有 為

異なる文化の融合から、いつしか素晴らしい文化が生まれるかもしれない。そんな夢を持ち続けたいと思っております。

事務局員

静岡県萬松院　住職

吉 田 宏 得

帰国して３年目となり、南の島より戻った曹洞宗の浦島太郎です。少しずつですが、諸老師のご指導をいただき、お役に立てる様に努めます。

特別プロジェクトチーム

1） 情報収集特別委員会

ハワイ担当　吉田宏得
北米担当　黒柳博仁
南米担当　加藤孝正
ヨーロッパ担当

2） 国際布教支援積立金運営委員会

飯島尚之
山本健善
月出俊典

3） 国際布教師ＯＢ連絡会

黒柳博仁
細川浩代

4） 聖護寺特別安居要員

大谷有為

5） ゆめ観音実行委員会

内山温子

6） 海外日系寺院史編纂委員会（継続）

委員長　福島伸悦
菅原研洲　浅井宣亮
太田賢孝　吉田宏得
黒柳博仁　加藤孝正
内山温子　佐藤慧真
相談役　各開教区総監　教化部国際課

… 国際布教支援積立金運用報告 …

インド日本寺曹洞宗坐禅会報告書

洞派信隆（長野県興龍寺住職）

【期　日】2010年(平成22年)
11月　9日(火)　午後　3時　開会
11月16日(火)　午前10時　解散

【会　場】インド共和国　ビハール州　ブッダガヤ
「印度山日本寺」　国際仏教興隆会館

【講　師】

元駒澤大学名誉教授　廣澤寺住職	小笠原隆元
SOTO禅インターナショナル会員	小野　義彦
日本寺元駐在員　興龍寺住職	洞派　信隆
【補 助 員】日本寺駐在員(曹洞宗)	洞派　正信

釈尊成道の地インド・ブッダガヤは、仏教を吸収したいと願う旅人が世界各地から集まる場所です。欧米人の多くはチベット仏教に傾倒する若者が非常に多く、時に数ヵ月滞在する事も稀ではありません。一方国際仏教興隆協会は「印度山日本寺」に仏教学東洋学研究センターを建設し、国際僧堂を併設する計画を進めており、数年前より坐禅会開催を要請されておりました。元駒澤大学名誉教授小笠原隆元老師とSOTO禅インターナショナルの協力が得られ、曹洞宗の坐禅を実践する体制が整いました。

- 国際仏教興隆協会は東洋学仏教学研究所に併設する僧堂を建設しようと計画しています。そこで永平寺の坐禅堂を視察していただき、「単」を制作する事を提案致しました。「印度山日本寺」は日本のほぼすべての宗派の協力の下、運営されておりますので、一宗派の形態に統一する事が難しい、特殊な形態を持つ組織です。坐禅堂とはいえ多目的に使用可能な空間を、時に坐禅に使用するという方針から、移動の出来る横長型で10台、20人が坐れる単を作成して頂きました。

作成した「単」

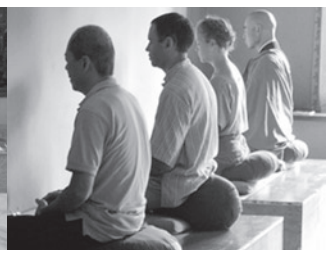
食器にて「応量器」を代用する

- 次に「禅」は僧堂の生活そのものでありますので、宿泊を重要課題とし、それに伴う食事も応量器を使用して展鉢をする事と致しました。しかしロクロ職人が遠方の町へ移住してしまい今回の坐禅会には間に合わせる事が出来ませんでしたが、2月臨済宗の坐禅会までには制作出来る様手配致しました。応量器の代用は日本寺の食器を借用し、箸袋・膝掛け・ふくさ・ふきん等は作成し、応量器風に仕立てこれを使用する事と致しました。
- 食事の調理は手が足りない事、器具の使用に不慣れな為、参加者駐在僧共に日本寺現地雇用のインド人スタッフにより調理された食事を頂く事とし、朝はお粥、漬物、ごま塩。薬石は経済性とスタッフの力量を考え、カレー、ダルスープ（豆のスープ）としました。カレーは応量器が使用できず、日本寺の食器皿を借用使用しました。粥飯台・薬石とも浄人を私と補助員が務め、2番飯台をする事の無い様努めました。
- 坐禅会開催の知らせ、参加者募集の方法及び受付等は日本寺が行い、この坐禅会の為専属の駐在僧を1名、補助員として任命して頂きました。開催の知らせはポスターを制作し、日本寺の掲示板と図書館に、他に旅行者が集まるミャンマー寺院にも掲示させて頂く事が出来ました。
- 坐禅堂を当初日本寺講堂と指定されていましたが、天井が高すぎ蚊取り線香の効果が無い事、照明が操作出来ない事、出入り口に網戸が無く蚊が侵入し易い事等の事情を考慮し、宿泊施設の食堂を坐禅堂とする許可を得、使用する事にしました。
- 坐禅の時間は、床に坐る習慣の無い欧米人に配慮し25分、経行を10分としました。当初朝夕の勤行後行われる坐禅に随喜しましたが、余りにも蚊が多い事、薬石の時間に重なる事もあり、夜坐があるので勤行だけの随喜としました。
- 坐禅及び食事の作法は、SOTO禅インターナショナル会員の小野義彦師が行い、小笠原隆元老師により1日3回、1回30分英語による講話が行われました。講話は曹洞宗宗務庁より頂いた「ＳＯＴＯ－ＺＥＮ」をテキストに、禅の歴史と基本的「偈文」等の説明が行われました。また、3時から4時は茶話会的に小笠原老師を中心に質疑応答が和やかに行われました。

展鉢の偈を唱える

粥・香菜・胡麻塩をいただく

日本寺駐在僧も参加する



「面　壁」

小笠原老師の講話

朝参の拝

迦葉尊者入滅の
「ククパタ・ギリ」へ

岩陰に迦葉尊者を供養し
仏塔が建造された

- 中日12日にはマハーカサッパが入寂されたと伝承されている、「鶏足山」ククパタ・ギリ（現在名・グルッパギリ ガヤ駅からカルカッタ方面に40キロほどのグルッパ駅南）に、参道を整備し仏塔を建設している、インド・ラダック出身の上座部僧侶アーナンダ師の同行を得、ほぼ全員で拝登する事が出来ました。
- 1日のカリキュラムは別表に沿い行われました。
- 参加者は8ヵ国、スウェーデン・オーストリア・アメリカ・スペイン・イタリア・中国・シンガポール・インド・日本の延べ16人が参加し、内1名は7日間、3名は6日間を修行しました。旅行者なので出入りが多く中には1日だけの参加者、夜坐だけの参加もありました。
- 大菩提寺の勤行に随喜したいと考えていましたが、状況が変化しており、参加を断念しました。
- この坐禅会は国際仏教興隆協会の依頼により、SOTO禅インターナショナル及び日本寺の協力を得、「曹洞禅仏陀伽耶共練会」の名称で行われました。
- 参加者から6000ルピーの参加費としての志納があり、これは日本寺に坐禅会からの寄付としました。
- 講師は国際仏教興隆協会より坐禅会講師の委嘱を受けました。

破壊された仏足石

破壊された仏足石の
あった場所に作られた
ヒンドゥーの足石

▶坐禅会の今後について

- 今回、SOTO禅インターナショナルからの推薦を受けた小野義彦師の印度訪問に合わせ、開催期日を三者話し合いの上11月に設定しました。しかし11月は東南アジア各国の仏教徒が巡礼に旅するシーズン始めになり、バンコックからガヤへの飛行機の席が非常に取りにくく大変苦労しました。アクセスが決して良いとは言えない聖地伽耶には、日本～バンコック～ガヤこの路線が短時間でさらに出費を抑える最良のコースであると考えます。

屋台店に並ぶ
色とりどりの「坐蒲」

- 12月になれば巡礼旅行も一段落し、バンコック～ガヤ～バンコックの航空券も入手しやすくなるものと思われます。
- 12月8日成道会に、日本寺は毎年インドで仏教を研究している学者を招待し結集を行っています。次回からこの日本寺での成道会に合わせ、坐禅会を開催出来ればさらに有意義な活動になるのではないかと考えます。協会も成道会に合わせ坐禅が行じられているならば、結集の意義も増すのではないだろうかと考えますので、今後協会とその方向で実施出来る様協議していきたいと考えます。
- ここは成道という特別な場所、出家在家という垣根を越え坐禅を行じなければならないのではと考えます。そこで今後は曹青会に、また出来るならば専門僧堂や海外寺院等にも案内を行いたいと考えます。

東南アジアから集まる上座部僧侶と信者、巡礼者が多くなっている

参 禅 会 日 程 表

4:00	起床・洗面			
4:30	暁天坐禅	～5:30	2炷目講話	
6:00	朝　　課			
7:00	小　　食		応量器にて展鉢	
8:00	掃除・休憩		会館内清掃	
9:00	坐　　禅	～10:00		
10:00	フリータイム			解散
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00	点　　茶		会館ロビー	集合
16:00	坐　　禅	～17:00		
17:00	晩　　課			
18:00	薬　　石			
19:00				
20:00	夜　　坐	～21:00	2炷目講話	
21:00	消　　燈			

「塔婆供養で植林支援」は今年も継続しています。

ＳＺＩ事務局長　亀野哲也（かめのてつや）

SOTO禅インターナショナル（以下ＳＺＩ）は、卒塔婆が環境に負担をかけているのではなく、逆に卒塔婆供養が環境貢献に繋がるというモデルを構築し、「塔婆供養で植林支援」という形で2008年より事業として展開しています。

「一本の塔婆で一本の苗木が育つ」という、目に見える環境貢献の仕組みです。

2008年に始まった事業も3年目に入り、全国のご寺院さま、檀信徒の皆様を中心にご理解が広がっています。

2011年2月15日現在、累計266件、苗木8万816本分の植林支援が寄せられました。

「塔婆供養で植林支援」に寄せられた苗木の植樹作業は、元の植生と同じヨーロッパアカマツ（学名：Pinus sylvestris）が継続的に行われています。

2月28日のＳＺＩ総会において、パートナーとして協働事業を行っているNPO法人、ＧＮＣより代表の宮木いっぺい氏（法政大学地域研究センター特任准教授）に、これまでの植林された苗木の生育状況などを報告いただきました。

特に2010年5月に植林された2万5千本の苗木は、植林後に充分な降雨があったため、とても順調に活着し、生長しているということです。その他、今後の事業展開に向けて具体的な示唆をいただきました。

「塔婆供養で植林支援」事業は、「一本の塔婆で一本の苗木が育つ」ことを判りやすく提示することを第一の目標に掲げております。卒塔婆を環境問題の素材として捉え、実践するためには、まだまだ展開の余地があります。

例えば、各御寺院様で国産の間伐材による卒塔婆を使用したり、使用後の卒塔婆を木材チップにして路面材や燃料にしたり、堆肥などにするなど、資源の循環システムを構築するためにはどのようにしたらよいかを考えることも出来るでしょう。

一見、環境破壊に見えがちな卒塔婆も、工夫することにより環境問題を考える素材となり、むしろ環境を守る源となりえます。

エンゲージド・ブッディズムを提唱されたベトナム出身の禅僧・ティク・ナット・ハンの詩の「紙」を「塔婆」に置き換えて考えることも出来るでしょう。

もしもあなたが詩人なら、この紙の上に雲が浮かんでいるのが、はっきり見えることでしょう。雲がなければ雨は降りません。雨が降らなければ、木は育ちません。そして木がなければ紙はできないのですから、この紙がこうしてここにあるためには、雲がなくてはならないのです。もしここに雲がなかったなら、ここにこの紙は存在しません。(略) この一枚の紙の中には、あらゆるものが入っているのです。ここにないものをひとつでも捜すことはできません。時間、空間、地球、雨、土壌の中の鉱物、太陽の光、雲、川、熱・・・すべてのものが、この一枚の紙の中に共存しているのです。(略)「ここにある」とは「ともにある」ことです。私たちが、あるいは、何かのものが、ただ自分だけで存在するということはありえないのです。私たちは、ほかのすべてのものとともに存在しているのです。一枚の紙がここにあるのは、ほかのあらゆるものがここにあるからなのです。

『微笑みを生きる』(ティク・ナット・ハン著より)

「塔婆供養で植林支援」は、ＳＺＩ会員（御寺院様や会社、個人など）のご理解により成り立っています。曹洞宗寺院だけに限ってみても、全国には一万を超える寺院、数百万の檀信徒、そしてそこから広がる関係はは計り知れません。

モンゴルに植えられた苗は力強く育っています。そして、木を育てる人も確実に育っています。モンゴルと日本を結ぶ「植林」の絆が広がっていくことを切に願います。

表：これまでに「塔婆供養で植林支援」で植林された苗木

寄託年	2008年寄託分	2009年寄託分	2010年寄託分
植林時期	2009年5～6月	2010年5月10日～5月20日	2011年5月予定
植林本数	25000本	25000本	約25000本
種類	ヨーロッパアカマツ （Pinus sylvestris）2年生苗木	ヨーロッパアカマツ （Pinus sylvestris）2年生苗木	ヨーロッパアカマツ （Pinus sylvestris）2年生苗木
植林面積	SZI-GNC共存の森として10ha	SZI-GNC共存の森として10ha	SZI-GNC共存の森として
植林場所	モンゴル国セレンゲ県トジンナルス地区シャーマル村	モンゴル国セレンゲ県チョロート周辺	＜未定＞
作業人数	ジャムスレン氏（セレンゲ県森林調査センター長） オトゴンバット氏（セレンゲ県森林調査センター職員） セレンゲ県スフバートル市の学生、村の住民約100名他	ジャムスレン氏（セレンゲ県森林調査センター長） オトゴンバット氏（セレンゲ県森林調査センター職員） セレンゲ県スフバートル市の学生約60名他	備考　一般参加の植林ツアーを実施予定

SZIの「塔婆供養で植林支援」は継続して行われます。

植林支援は宗派によらず参加可能です。
苗木本数分×30円の植林支援金をＳＺＩ事務局へ振込んでいただくことにより、事務局よりポスター、植樹証明書、苗木本数分の通し番号付植林支援シールをお届けします。各寺院様にはこのシールを卒塔婆に貼付し供養の施主に渡すなど活用くだされればと思います。

郵便振込口座 00100-6-611195　SOTO禅インターナショナル
「塔婆供養で植林支援」と明記ください。

詳細はホームページをご覧いただくか、ＳＺＩ事務局までお問い合わせください。

… 海外レポート …

ハワイ寺院拝登

SZI相談役 福島伸悦（埼玉県長光寺住職）

＊はじめに

昨年、細川会長より日系寺院史編纂プロジェクト委員長の大任を仰せつかり、資料等の収集を行い、デジタルデータの資料としてまとめる作業をしてまいりました。

今回のハワイ寺院拝登の目的は、日系寺院史編纂に当たり、個人的にハワイの日系寺院の中でまだ拝登していないヒロ大正寺を訪問することと、駒形宗彦ハワイ国際布教総監にご協力いただけるようお願いすることでした。

＊コナ大福寺

12月17日、ハワイ島コナ空港に到着してすぐに、昨年も拝登したコナ大福寺を訪問しました。コナ国際空港から南へ車で20分という近さです。

大福寺のご開山様は児玉介石師で、現在の本堂は1921年に完成したものです。歴代の布教師の皆様、そしてメンバーの人たちによって本堂・境内は手も加えられてきれいに保たれています。本当に皆様がお寺に対して愛着をもっていることがうかがえます。

中出慈光師に再会をしてご挨拶をいたしましたが、中出師は日系3世ということもあり、地域に密着した寺院運営をされているのがすぐにわかりました。ウイークデーにもかかわらずメンバーの方々が寺のアクティビティに参加されていました。丁度、本堂に設置された新しいオルガンのチューニングを調律師の方がしておられました。サンデーサービス、あるいはご詠歌の伴奏で使うのだということです。

中出師は、前住の田宮隆児師から嗣法を受けていて瑞世も済まされているにもかかわらず、安居歴がないために国際

本堂外観

布教師の資格が得られておりません。現在、法務担当という立場ですが、メンバーの方々からの信頼は大変厚く、皆様から親しまれております。今後の更なるご活躍を期待致します。

＊ヒロ大正寺

12月19日には、レンタカーでコナから約2時間のドライブでヒロ大正寺を拝登しました。今度の住職・ラング明心師は国際布教師としてロサンゼルス禅宗寺に従事しておりましたが、秋田新隆師の後任として1年前に赴任したアメリカ人です。

この大正寺は、1915年に永平寺66世日置黙仙禅師が、サンフランシスコで開かれた世界仏教徒会議に日本代表として出席した帰路、ヒロに立ち寄り歓迎され、住民の要望で翌年開教師を派遣することを約束したのが始まりです。そして、1916年に、江沢白道師がココナッツ湾近くに、新町仮布教所を設立し、翌年現在の土地を取得して本堂の建設が始まり

コナ大福寺　中出慈光師（左）

ヒロ大正寺　位牌堂

本堂内　ラング明心師（中央）

カマド

ました。街の中心にあるために、現在は、アパート経営、並びに駐車場経営等寺運営の経済的基盤が保障されているようです。

メンバーの人たちは、日系2世・3世で、菩提寺としての意識が大変強く護持運営に積極的に携わっておられます。当日も婦人会の方々がご詠歌の練習に来られておりました。本堂内、境内にはいつも花が生けられて絶えることがないとのことです。すべて婦人会のみなさまのご奉仕とのことです。また、めいめいが手作りのお菓子など持ち寄って、団欒の場としているようです。

5年後は創立100周年になるということで、明心師は記念事業に向けて準備をされるとのことです。我々もできる限りのサポートをしていきたいと思います。

＊ホノルルハワイ別院正法寺

12月20日、ホノルルハワイ別院正法寺を拝登。駒形総監にお会いし、ＳＺＩで現在進めている日系寺院史の編纂の作業に協力依頼をさせていただきました。現在、駒形宗彦総監は第六代目にあたります。祖父が第二代総監・駒形善教師、父親が第三代総監・駒形善秀師と国際布教に携わる家庭に育ち、ハワイで教育を受け、大本山總持寺に安居されたバイリンガルの国際布教師です。

駒形総監は、敷地内にあるSOTO ACADEMYという私立の小学校の理事長という教育者としての顔も持ち合わせています。また、日系3世の奥様のフェイさんは、和太鼓をハワイ全土に広められた方で、現在も指導者として青少年の育成に努めておられます。ご子息・宗二師はアイエア太平寺の法務担当者として寺だけでなく、日系社会のリーダーとして成長されています。総監は、多忙な毎日を過ごされているようですが、ハワイ曹洞宗寺院9ヵ寺をとりまとめ、将来どのような方向性に導いて下さるのかその手腕に期待がかけられています。

＊おわりに

海外の日系寺院は18カ寺あります。今や禅センターを含めた曹洞宗の寺院は世界各地でそれぞれの活動をされていますが、日系寺院の存在があったからこそ今があると思います。私達が今この日系寺院史プロジェクトに力を入れるのは、忘れてはいけないものをしっかりと次の世代に伝える使命を感じているからです。日系寺院がこれからどのようになるかわかりませんが、宗門の多くの人たちにその存在を知って頂きたいと切に願うものです。

ハワイ別院正法寺　駒形総監（中央）と埼玉県出身・石井国際布教師（右）

… 国内レポート …

曹洞宗長野県第一青年会40周年記念講演会

山口泰祐（長野県来沢寺住職）

平成22年11月20日(土)、長野市の善光寺門前町にある「日和カフェ」を会場に、当会の創立40周年を記念する特別講演会を開催しました。テーマは、「アメリカに広がる曹洞禅」。大本山永平寺後堂鈴木包一老師、前・北アメリカ国際布教総監でオークランド好人庵禅堂住職の秋葉玄吾老師、サンフランシスコ禅センター住職スタッキー妙眼老師の３名を講師にお招きし、講演とパネルディスカッションをして頂きました。「カフェ」という場所を選んだのは、我々青年会員と同じ世代の一般の方達に是非足を運んで欲しいというねらいがあったからです。当日は、会員、来賓関係者、一般参加者、合わせて60名程のこぢんまりとした講演会でしたが、会場内の雰囲気はとても良いものでした。以下、当日の講師さんのお話を要点のみまとめてみました。

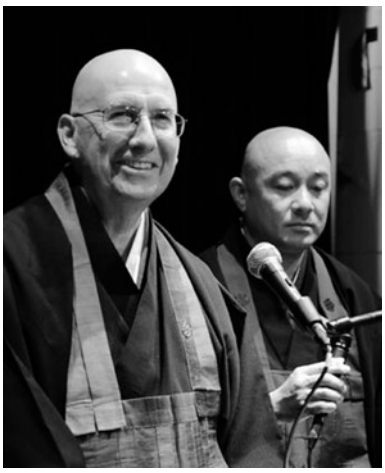
秋葉玄吾老師

①秋葉玄吾 老師

北アメリカには大きく分けて２つのタイプの寺院が有ります。一つは日本からの移民(日系)の為のお寺。もう一つはアメリカの一般の人達が自ら選び取って信じた宗教(坐禅)を実践できる場として、自らの手で築いたお寺(禅センター)です。現在そのようなお寺(禅センター)は北アメリカには、250以上有ります。又、ヨーロッパでも北アメリカと同じぐらいの広がりを見せています。何故そのように広がったかと言うと、始めの大きなきっかけは、第２次世界大戦後、かつてない程の経済大国となったアメリカが、ベトナム戦争を始めたことでした。物質的な繁栄と生命の不安という相反する現実に直面した若者たちが「どういうふうに生きていけばよいか？」と、人生の目標・生きる意味を真剣に問う時代になりました。学校に通う事を放棄したヒッピーと呼ばれる当時の若者達がアラン・ワッツ氏(カリフォルニア大学バークレー校東洋哲学教授)などと繋がりのある日本人開教師の話や、その坐禅会において今まで出会った事のない物の考え方、解釈の仕方に出会い感銘を受けたのです。そして、その若者達が今ある禅センターの礎を築き、広がって行きました。今現在では大きく分けて、当時の開教師である鈴木俊隆老師、片桐大忍老師、前角博雄老師の３名のお弟子さんたちが禅を広めています。そこに暮らす人々は「人間の知性で築いてきた世界をどこかで支え変えてくれるものがあるのではないか？」と禅仏教を捉えているように思います。私はよく言うのですが「人間は恐竜化してしまった」と。そういう人間が知性で築いた世界は長持ちはしませんね。皆さん若いお坊さんは日本で檀家さんのあるお寺を保っていかなければいけない。それは古い歴史の中で背負わされた役目です。日本のお坊さんは日本の社会の中で仏教のお坊さんであると同時に「宗教家」でなければいけない。そういう社会の中での役割とは何だろう？歴史的に背負わされたお坊さんの役目以外に今現在の社会の中で「宗教家」としての役目とは何だろう？そういう所に目を向けてこれからの若い人達に努力していって欲しいと思います。かえって海外の禅などに目を向けて見るとその答えが見えてくるのではないでしょうか？

②スタッキー妙眼 老師

青年会40周年おめでとうございます。同じ40年前に、何か革命を起こそうと思っていた私達の気持ちと、皆さんの曹青会ＯＢがこれから何か新しい事を始めようと思い会を作られた事は何か共通するように思います。そして鈴木俊隆老師がアメリカに禅を、特に道元禅師の教えを伝えて下さったその努力に今も多大な感謝をしております。鈴木老師がアメリカに来られたのはサンフランシスコの日系の人達の為のお寺である桑港寺の住職をする為でした。当時、「禅」という言葉自体にとてもいい響きを感じ、禅について何も知らないのですが何か究極的な感じや、とても質の高い力強いものをその言葉自体に感じていました。そこで鈴木老師に「禅とは何ですか？」と聞くのですが、「私は桑港寺で毎朝AM ５時15分から坐禅をしています。あなたも一緒に坐ってみませんか。」というシンプルな答えでした。しかし、その答えは常に「行」に焦点をあて、その「行」に導いて下さるものでした。昨晩ある人が私に「どうして坐禅をするようになったのですか？」と質問しました。ベトナム戦争の反戦運動に関っていた私は、当時大勢の仲間と物質主義、戦争肯定主義のアメリカを変えなければいけないと思っていました。ところがその活動の中で「自分の持っている自己中心的な考えを変えなければいけないんじゃないか？自分自身を変えたい。」と気付きました。「菩提心」とか「発菩提心」という言葉をその時は知りませんでしたが、今思えばベトナム戦争当時「自分を変えたい」と思う気持ちが「発菩提心」だったように思います。今サンフランシスコの３つの道場では、それぞれ50人の僧侶が臘八摂心の準備をしてい



スタッキー妙眼老師と
通訳の黒柳博仁師

ます。その全員から長野の皆さんに「こんにちは」と伝えて下さいと言われてきました。是非、一人でも多くの皆さんに、いや会員全員のみなさんでも結構です、サンフランシスコ禅センターに足を運んで頂ける事を心より願っています。

鈴木包一老師

③鈴木包一 老師

師匠である鈴木俊隆が亡くなり40年になりますが、今でも私の寺にはアメリカやヨーロッパの方が月に一度は訪ねて来ます。現在、永平寺で後堂という役をしておりますが永平寺にも外国の方が来て坐禅をして行きます。先日は私の弟子がポーランドにおりまして、呼ばれて行って参りました。その時にキリスト教の方から質問をされました。「ここにはキリスト教徒が大勢いますが坐禅をしてもいいのですか？」と。そこで私は、「キリスト教の方であっても、誰であっても坐禅をした瞬間に坐禅の人になっている。『これを信じなければ、こういう事をしなければ坐禅をしてはいけない』という事は無い。」とお答えしました。これが「禅」という事ですね。禅という事は広いという事であり、境目の無い隔たりの無い心、そういう心を養ってくれるのが坐禅です。それがどう具体的に現れてくるかと言うと時間的な経過、これを超えている。また、はずれているものだと思うのです。

道元禅師様は「仏祖」と言います。「仏」と「祖」と書くのですから、ずっと昔のえらいお坊さんの事だと思っておりました。しかし、よく考えてみると皆さんが足を組んで坐った瞬間にそこに現れるものなんですね。そこに現成する。そこに作りだすもの。それが「仏祖」という事です。また、時間・場所・空間を超えていないといけない。だからあそこの道場でなければとか、ここの道場でなければいけないという事ではなく、坐った場所が仏の世界、仏世界であるという事ですね。そして意識的にも超えてなくてはいけない。永平寺では小参（問答）がありますが、その時修行僧からよくこう聞かれるんです「坐禅の時、頭の中によく妄想が湧いてきますがどうしたらよいのでしょうか？」と。そこで私が言うのは、「いかんともする事が出来ない。どうする事も出来ないのだから、その妄想と一緒になって坐禅をしなさい。坐禅は妄想をも包むものだ。」とお答えします。又ある時は、「妄想があるという事が分かった。あるという事が分かるという事は、それは菩提心を持っているからなんだ。菩提心の無い人には妄想という事は無い訳だから、菩提心があるから妄想を感ずるんだよ。だから妄想を一緒に包む坐禅を工夫しなさい。」と答えます。アメリカの人も師匠に永平寺の修行僧と同じような質問をしています。「坐禅の時に妄想がありますがどうしたらいいですか？」と。そうしたら「そうですか、でもその妄想に何か問題が有るんですか？」と答えたそうですね。（笑）妄想だって天地の現れの一つ。妄想と感ずる心が無ければ真実を求める心も、もとから無い。論理を超えていなければならない訳ですね。

師匠は生前、「アメリカの土になる」と言っておりましたが、その言葉通りアメリカの土になり亡くなりました。何かを成し遂げるとはそのくらいの覚悟が必要なのかもしれませんね。また、師匠はとても物忘れのひどい人で、腕時計なんかもいくつも失くしておりました。私も物忘れがひどく、子供の頃やはり忘れ物をして父親から怒られ池に投げ込まれた事があります。しかしそんな事をしてもですね、物忘れは直りませんでしたね。やはり私も父親の後を継いでいるようです。（笑）

以上のようなお話を懇切丁寧にして頂きました。この後、質疑応答も行われ会員から３名、一般の参加者から１名質問がありました。残念ながらスペースの都合でその内容に触れる事が出来ませんが、とても和やかな時間となりました。これは私の所感ですが、アメリカの禅センターは日本の寺院に比べ、とても風通しがいいように感じました。檀家さんが無いので当然かもしれませんが、一般の方が禅センターの色々な工夫により集い大勢の人達が交流している。檀家制度（家族）の形が変わろうとしている現代の日本において、特に我々青年会世代が寺院を運営するにあたり、とても参考になる取り組みがそこにあるように思いました。最後にこの講演会が開催できた事を、講師をお務め頂いた３人の御老師をはじめ、通訳をお務め頂きました当会OBでもある黒柳博仁老師、そして今までの礎を築いて下さった先輩諸老師各位、ご協力頂いた会員各位に深く感謝申し上げます。

余談ですが、スタッキー老師の申し出で講演会当日の朝、私の師寮寺で暁天坐禅を一緒にお勤めしました。AM５時にホテルまでスタッキー老師を車でお迎えに行くと、すでに黒衣で袈裟袋を持ち玄関の前で待っておられました。今振り返ってみるとその立ち姿がとても印象に残っています。

（長野県第一青年会第20期会長）

記念講演会のために制作されたチラシ

大本山總持寺ワークショップ開催にむけて

SZI事務局長 **亀 野 哲 也**

このたび、SOTO禅インターナショナルでは、ベトナム出身の禅僧・ティク・ナット・ハン師を講師としてお迎えし、僧侶・SZI会員限定の講演会を5月2日に開催する予定です。

■ 大本山總持寺ワークショップ
（僧籍を持つもの、およびSZI会員限定です）
・**日　時**：2011年5月2日(月)（講演は15：00～）
・**会　場**：曹洞宗 大本山 總持寺 三松閣大講堂
・**講　師**：ティク・ナット・ハン師

曹洞宗より出された《平成22年度　布教教化方針》には、これまでになかった項目が加えられました。

6、寺院を地域社会の「絆を再生する場」に活かします。
私たちは、地域社会に積極的にはたらきかけ、寺院を広く開放し、人々との様ざまな縁を大切にし、信仰生活を柱とする絆をつくっていきます。

これは、まさに「地域の核として、広く地域社会と結びつく縁を広げ絆を深める」というエンゲージド・ブッディズム（社会参画型仏教）の精神でもあります。この「エンゲージド・ブッディズム」という名前は、ベトナム出身の禅僧 ティク・ナット・ハン師により命名、実践されてきた活動です。

■ リトリートテーマ「今を生きる、ともに生きる」について
Enjoying the Present Moment, Living in Harmony

16年ぶりの来日となる今回の、全体を通してのテーマは、マインドフルネス「いまを生きる」と、インタービーイング「ともに生きる」です。どちらも仏教の教え、ティク・ナット・ハン師の教えの中でとても大切にされている教えです。講演を通して、「いまを生きる、ともに生きる」ことを体感し、実感していただけたら幸いです。

■ いまを生きる　Enjoying the Present Moment
マインドフルネス、「気づき」

「気づき」とは、今ここ、この瞬間に目覚める力です。毎日の生活の一瞬一瞬に意識的に触れる練習です。気づきをもつとは、今ここに真に生きることであり、周囲の人たちや周りで起こっていることと一つになることです。「気づき」とともにあることで、理解、愛、慈しみ、喜びのこころが育ちます。自分自身や社会の中に存在する苦しみに気づいて、それを変容する助けとなります。

■ ともに生きる　Living in Harmony　インタービーイング

近年、ティク・ナット・ハンは気候変動や、先進諸国が抱える大量消費の問題に大きな関心を寄せています。「インタービーイング」とは、宇宙にあるすべてのものは相互に依存しあって存在しているという仏教の洞察を、西欧諸国にわかりやすく伝えようとしたティク・ナット・ハンの造語です。「ここにある」とは、「ともにあること」です。私たちが、あるいは何かのものが、ただ自分だけで存在するということはありえないのです。私たちは、ほかのすべてのものとともに存在しているのです。（ティク・ナット・ハン著『微笑みを生きる』より）

私たちの行動を深く見つめると、きっと自分にとっての平和な生き方が見つかることでしょう。

講演会へのお申し込みは最終ページをご覧ください。

末筆ながら、ティク・ナット・ハン師より、東日本大震災へのメッセージが寄せられていますのでご紹介します。

Dear friends in Japan,
As we contemplate the great number of people who have died in this tragedy, we may feel very strongly that we ourselves, in some part or manner, also have died.
The pain of one part of humankind is the pain of the whole of humankind. And the human species and the planet Earth are one body. What happens to one part of the body happens to the whole body.
An event such as this reminds us of the impermanent nature of our lives. It helps us remember that what's most important is to love each other, to be there for each other, and to treasure each moment we have that we are alive. This is the best that we can do for those who have died: we can live in such a way that they continue, beautifully, in us.
Here in France and at our practice centers all over the world, our brothers and sisters will continue to chant for you, sending you the energy of peace, healing and protection. Our prayers are with you.

Thich Nhat Hanh

書●籍●紹●介

迷える者の禅修行
ドイツ人住職が見た日本仏教

著者 **ネルケ無方**

新潮新書　定価：本体740円（税別）

ネルケ無方（ねるけ むほう）
Profile
1968年ドイツ生まれ。禅僧。兵庫県にある曹洞宗・安泰寺住職。高校時代に坐禅と出会い、仏道を志す。1993年、安泰寺にて出家得度。京都の名刹や大阪城公園でのホームレス修行生活などを経て、2002年から現職。檀家ゼロ、自給自足、坐禅三昧の修行生活を送っている。

現在、SZI国際布教支援金の運用を行っている安泰寺の住職、ネルケ無方老師の著書が話題になっています。「お坊さんになって悟りたい！」と日本にやって来た著者が、そこで見たものは、この国の仏教のトホホな姿。算盤を弾くばかりの住職、軍隊のような禅堂、仏教に無関心な世間。失望と流転の末、ようやく著者が辿り着いた理想の修行は、安泰寺での自給自足・坐禅三昧の生活でした…。6月17日（金）永平寺で修行僧向けの講演を行なうネルケ老師の「一瞬を今に生きる意味」を問う、修行奮闘記です。

SZI express

南米佛心寺　大梵鐘設置に関するご寄付のお願い

一昨年50周年を迎えた南米佛心寺では、記念事業の集大成として、大梵鐘の設置に向け浄財を募っています。

昨年11月には御開山堂の遷座式が、また12月には事務所の拡張工事の上棟式が行なわれ事業の計画は一応完了ということになりましたが、これを記念して大梵鐘を設置してはとの意見があり、これを採用することになったものです。「梵鐘はその字のごとく梵音を響かせる鐘であり、梵音とは仏の発する清浄な音声であります。この音を聞くだけで仏の慈悲に抱かれている喜びを感じ、さらに自らも仏の悟りを求める心を起こす響きを世界に向けて発信するものです。まさに記念事業の集大成として相応しいものであります」とは、佛心寺住職・南米国際布教総監采川道昭老師のお言葉です。ご寄付者には、ご法名を刻ませていただきますとのこと。ぜひとも、多くの方のご協力をお願いいたします。

【大 梵 鐘】 予算700万円（≒Ｒｓ 140,00)、運賃・設置料含む

【設置場所】 本堂と大鑑閣を結ぶ渡り廊下部分（移動式鐘楼）

【振込要領】 ご寄付いただけます方には、振込用紙の用意がありますので、佛心寺までお問合せください。

Rua Sao Joaquim 285, Bairro da Liberdade,
Sao Paulo-SP, CEP:01508-001 BRASIL
TEL:55-11-3208-4515
FAX:55-11-3208-0418
E-mail:sotozen@ig.com.br

【受付期日】 2011年5月末日迄

2011年度　国際布教支援積立金　受給者募集のお知らせ

応 募 資 格：曹洞宗の国際布教事業に対する内外の寺院・団体・個人
支　援　額：年度総額100万円
お問い合わせ：SOTO禅インターナショナル事務局まで

申込書はＳＺＩのホームページからダウンロード、もしくは事務局にお申し出下さい。

会費納入者・賛助金納入者名簿　2010年12月15日～2011年3月15日まで

ありがとうございました。
大切に使わせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名

2010/8/1 ～ 2010/12/15
（順不同・敬称略）

青森県	保福寺	山口義博
千葉県	瑞岩寺	伊藤仁志
福島県	常円寺	阿部光裕
愛知県	地蔵寺	淺井宣亮
埼玉県	集福寺	松本文雄
千葉県	瑞岩寺	伊藤仁志
栃木県	乾徳寺	
福島県	佛母寺	小野俊憲
福島県	常円寺	阿部光裕
愛知県	地蔵寺	淺井宣亮

■ 賛助金納入者ご芳名

2010/8/1 ～ 2010/12/15
（順不同・敬称略）

愛知県	地蔵寺	淺井宣亮
東京都	西照寺	嗣永典子
栃木県	乾徳寺	

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名

2010/8/1 ～ 2010/12/15
（順不同・敬称略）

宮城県	大雄寺	
栃木県	乾徳寺	
神奈川県	大藏寺	佐藤直道
東京都	西照寺	嗣永典子
福島県	昌建寺	秋　央文

累計苗木 76,461本分

■ 助成金

大本山永平寺

動　静　報　告

2010年12月16日～2011年3月15日

1月17日	会報発送作業	事務局
1月17日	役員会	事務局
2月16日	会計監査会	檀信徒会館
2月16日	役員会	檀信徒会館
2月28日	役員会・総会・講演会	檀信徒会館
3月11日	編纂委員会・役員会	檀信徒会館

随時インターネットにて役員会を開催しております。

編集後記

会報の情報は役に立っているのだろうか。文字の大きさは十分だろうか。活動の告知は目に届いているのだろうか。手探りで編集しております。皆様からの感想やご指導の声などをいただけましたら幸いです。　佐藤慧真九拝

ＳＺＩホームページ運営中

会報バックナンバー、過去の総会・講演会、スタッフページなどもご覧いただけます。

ＳＺＩ　検索　**ＳＺＩで検索！**

URL　http://soto-zen.net

ＳＺＩ両大本山ワークショップのおしらせ

■ 大本山永平寺ワークショップ

（夜間内講として行ないますので、対象は修行僧のみです）

・**日　時**：2011年6月17日(金)
・**講　師**：兵庫県安泰寺住職　ネルケ無方師

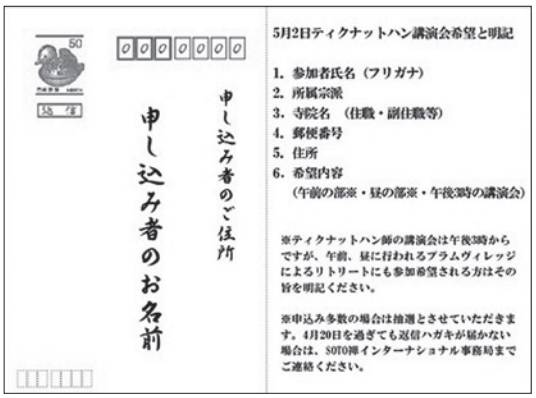
■ 大本山總持寺ワークショップ

（僧籍を持つもの、およびＳＺＩ会員限定です）

・**日　時**：2011年5月2日(月)（講演は15：00 ～）
・**会　場**：曹洞宗 大本山 總持寺 三松閣大講堂
・**講　師**：ティク・ナット・ハン師
・**主　催**：SOTO禅インターナショナル
・無料ですが、参加票が必要です。

【応募に際しての注意事項】

・大震災の影響で、ティク・ナット・ハン師の来日が延期になる可能性があることをご容赦ください。
・参加者の募集は「往復はがき」により受付けます。
・往復はがきでの応募は4月10日(消印有効)までを受付期間とします。
・宛先は 〒233-0012 横浜市港南区上永谷5-1-3 SOTO禅インターナショナル宛 です。
・先着順ではありません。結果は4月20日に返信はがきでご連絡いたします。



〈返信面〉

〈往信面〉

キャンドルナイトin大船観音 2011 Summer

http://soto-zen.net/candle

【日　程】 2011年6月19日(金)
※雨天の場合は事務所内と周辺のディスプレーのみ。
【時　間】 日没～
【料　金】 500円(献灯代が含まれます)
【場　所】 大船観音寺
鎌倉市岡本1-5-3 ／ JR大船駅西口から徒歩10分
Tel：0467-43-1561
【主　催】 ゆめ観音実行委員会

CONTENTS

▶**巻　頭**　東日本大震災お見舞い…… 1
▶**特　集**　2011年度総会・講演会報告
2011年度　所信表明　温故知新　－顔の見える支援交流活動－ ……ＳＺＩ会長　細川　正善　2
講演抄録「国際布教伝道史への提言＜国際布教の古今東西＞」……長野県廣澤寺住職　小笠原隆元　3
総会レポート…… 6
総会資料「2010年度事業報告・決算報告」…… 7
「2011年度事業計画・予算報告」…… 8
ＳＺＩ新役員紹介…… 9
▶インド日本寺曹洞宗坐禅会報告書……長野県興龍寺住職　洞派　信隆　11
▶「塔婆供養で植林支援」は今年も継続しています。……ＳＺＩ事務局長　亀野　哲也　13
▶**海外レポート**
「ハワイ寺院拝登」……ＳＺＩ相談役　福島　伸悦　14
▶**国内レポート**
「曹洞宗長野県第一青年会40周年記念講演会」……長野県来沢寺住職　山口　泰祐　16
▶大本山總持寺ワークショップ開催にむけて・書籍紹介…… 18
▶**SZI express**　南米佛心寺大梵鐘ご寄付のお願い・会費納入者・賛助金納入者名簿・動静報告・編集後記 …… 19
▶ＳＺＩ両大本山ワークショップのおしらせ・キャンドルナイト in 大船観音 …… 20